

# 岡山県の地震

## 令和8年(2026年)6月

### 目 次

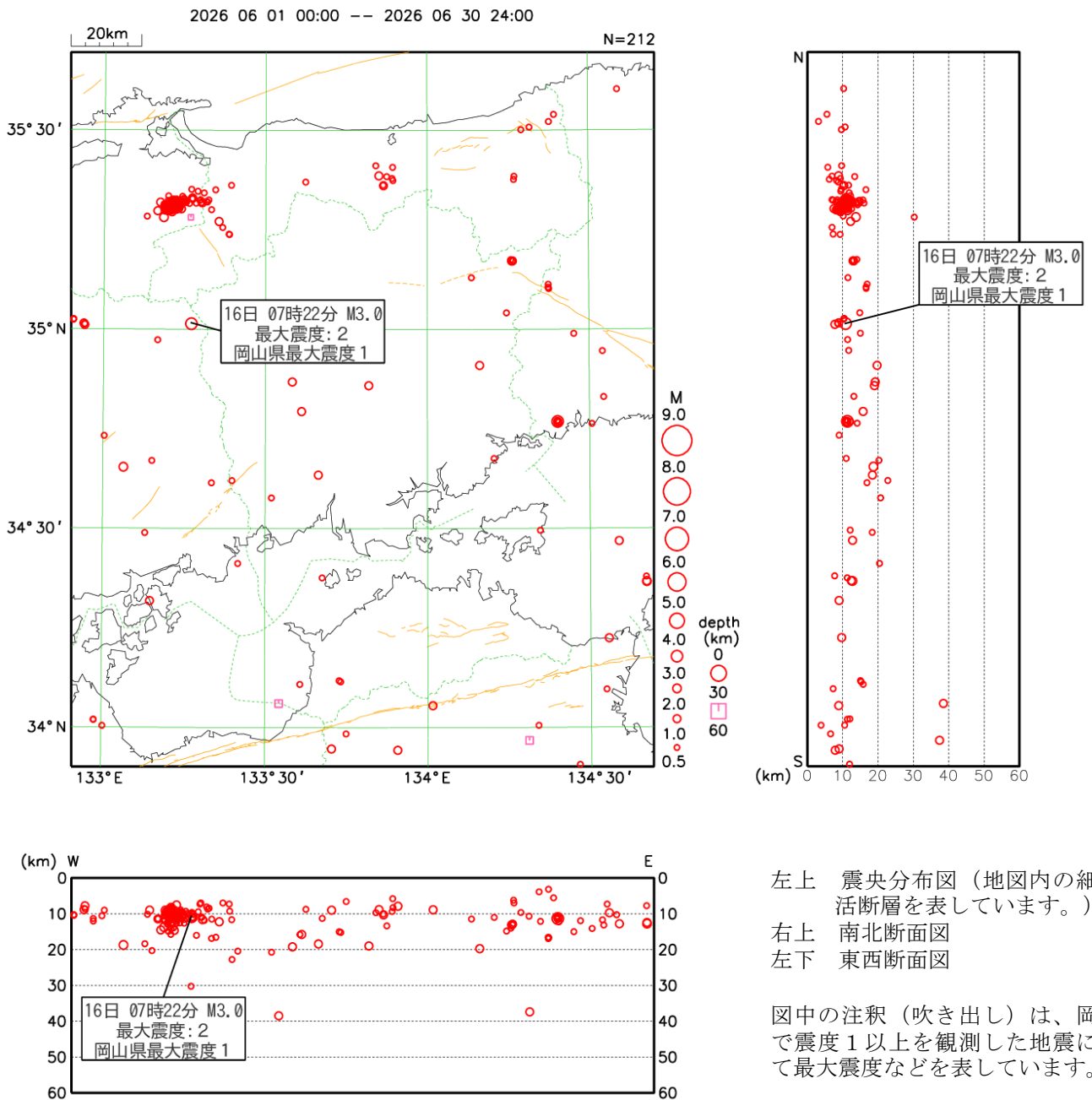
|                           |     |
|---------------------------|-----|
| ○岡山県及びその周辺の地震活動（6月）       |     |
| 震央分布図及び断面図                | … 1 |
| 概 況                       | … 1 |
| 岡山県において震度1以上を観測した地震の表     | … 2 |
| 岡山県において震度1以上を観測した地震の震度分布図 | … 2 |
| ○地震防災メモ No.246            |     |
| 遠地地震による津波                 | … 3 |

- 「岡山県の地震」は、月1回発行し、岡山県及びその周辺の地震活動をお知らせするとともに、適宜、社会的関心の高い地震について解説します。また、「地震防災メモ」により地震、津波に対する防災知識の普及等に努め、皆様のお役に立つことを目的としています。
  - この資料の震源要素、震度データは、再調査されたあと修正されることがあります。
  - 本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。
- また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、2022年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（よしが浦温泉、飯田小学校）、2025年トカラ列島近海における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（平島、小宝島）、EarthScope Consortiumの観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。

## 岡山地方気象台

# 岡山県及びその周辺の地震活動(6月)

## 震央分布図及び断面図



## 概況

・6月に岡山県で震度1以上の揺れが観測された地震は1回(前月:2回)でした。

# 岡山県において震度1以上を観測した地震の表(6月)

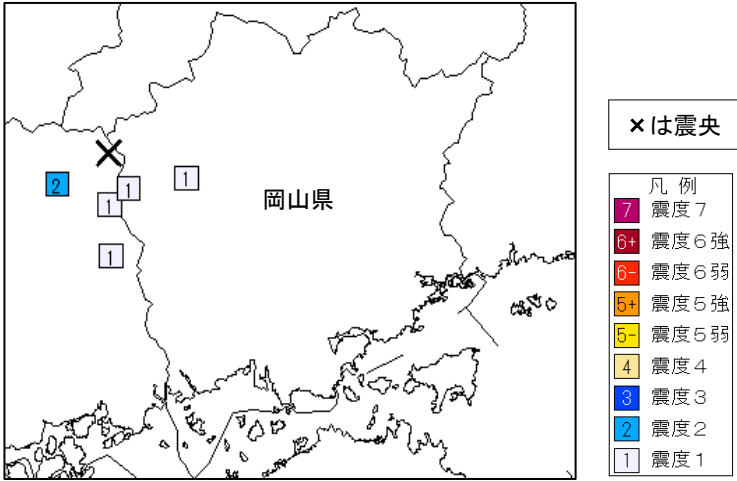
|                   |                          |                          |      |      |
|-------------------|--------------------------|--------------------------|------|------|
| 2026年06月16日07時22分 | 広島県北部                    | 35° 00.8' N 133° 16.2' E | 11km | M3.0 |
| ----- 地点震度 -----  |                          |                          |      |      |
| 岡山県               | 震度 1 : 新見市唐松*, 新見市哲西町矢田* |                          |      |      |

- 注) 1 内容は暫定値であり、後日再調査のうえ、修正されることがあります。  
なお、地震データの確定値は『気象庁地震・火山月報（カタログ編）』に掲載されます。
- 2 地名に\*印を付したものは、岡山県又は防災科学技術研究所の震度観測点によるものです。  
なお、震度は気象庁震度階級表によるものです。

## 岡山県において震度1以上を観測した地震の震度分布図(6月)

### 2026年6月16日07時22分 広島県北部の地震

岡山県及び周辺観測点の震度分布



#### <地震の概要>

16日07時22分 広島県北部の地震（深さ11km、M3.0）により、広島県庄原市で震度2を観測しました。岡山県では新見市で震度1を観測しました。

## 遠地地震による津波

今年の6月8日に発生したフィリピン付近の地震(マグニチュード(M)7.7)では日本の太平洋岸でも津波が観測されました。このような国外で発生した地震を遠地地震と呼びます。海で発生した地震では津波が発生することがあり、遠地地震では海を渡って津波が日本に襲来し被害が生じることがあります。今回はこのような津波の特徴と気象庁の発表する情報について解説します。

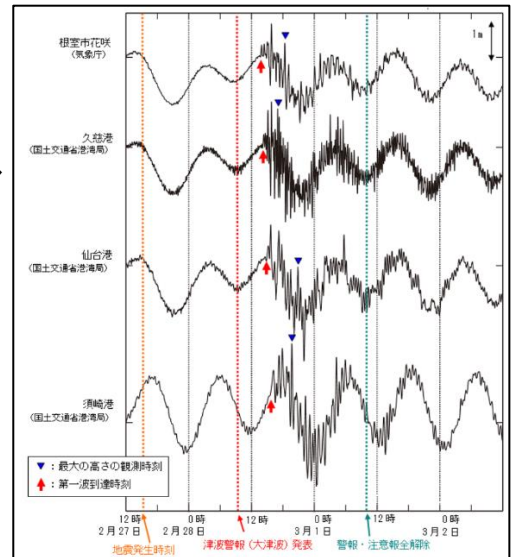
### ○遠地地震による津波の特徴

遠地地震では大地震であっても日本で強い揺れを感じることはほとんどありません。一方で、規模の大きい津波は、はるか遠くまで伝播し日本に到達することがあります。つまり、揺れを感じていないのに津波が襲来することになります。

また、遠くから伝播してくる津波は、途中の海底地形や陸地の影響を受け反射・散乱を繰り返しながら複雑に変化し、津波が長時間継続するほか、様々な方向から伝播してきた波が重なって高い津波になることもあります。このため、第一波より後続の津波が高くなる場合があります。

右図は2010年2月27日に発生したチリ中部沿岸の地震(M8.8)の際に日本国内の主な検潮所で観測した津波の波形です。地震発生から約22時間後に津波が日本に到達し、その後1m近い津波が3月1日早朝にかけて繰り返し押し寄せてきていることが分かります。なお、この地震では岡山県の宇野でも津波を観測しています。

この例のように、一般に遠地地震による津波は日本近海で発生する津波に比べると地震発生から津波到達までに猶予がありますので、それを活用して避難などの防災対応をとることで被害を軽減できる可能性が高まります。



2010年2月27日チリ中部沿岸の地震における日本国内の主な検潮所で観測した津波

### ○遠地地震による津波に関する情報

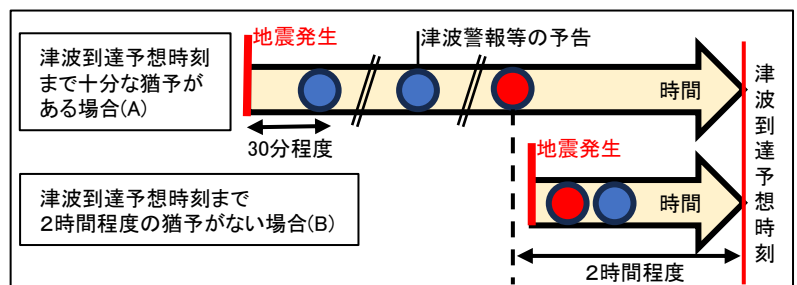
気象庁では、M7.0 以上などの条件のそろった遠地地震が発生した場合に、地震発生から30分程度で「遠地地震に関する情報」として、地震の発生時刻、震源やマグニチュードだけでなく、日本への津波の影響の有無についても発表します。

その後、津波の伝播経路上の観測値やシミュレーションで津波の予想の精度を高めます。

日本への津波の襲来が予想されると、前述のチリ中部沿岸の地震のように日本への津波到達に十分な猶予がある場合、津波到達予想時刻の2時間程度前に津波警報等を発表します(下図A)。また、それに先んじて遠地地震に関する情報や記者会見で、津波警報等の発表を予告しますので、津波警報等発表直後に迅速な防災対応をとるための準備に充てることができます。

一方、今年6月8日のフィリピン付近の地震や、昨年7月30日のカムチャツカ半島付近の地震(M8.8)のように、遠地地震でも地震発生から日本への津波到達まで2時間程度の猶予がない場合は、まず、津波警報等を発表し、その後遠地地震に関する情報を発表します(下図B)。この場合は、遠地地震といえども津波到達までの猶予は短いので、津波警報等の発表後直ちに避難などの防災対応をとることが肝要です。

これからレジャーシーズンになりますが、今回紹介したように揺れを感じなくとも津波警報等が発表されることがありますので、海に出向くときはラジオやスマートフォンなどを携帯し、常に最新の情報を入手できるように心がけましょう。



遠地地震発生時の情報の発表の時刻系列 (●遠地地震に関する情報 ●津波警報等)

(参考) 気象庁ホームページ: 知識・解説 > 津波から身を守るために

[https://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/jishin/tsunami\\_bosai/index.html](https://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/jishin/tsunami_bosai/index.html)